

太宰府の文化財

(443)

祝 姉妹都市承継締結10周年 百済の都 扶餘

太宰府市の姉妹都市である、扶餘郡は、大韓民国の中央部西側の忠清南道にあり、古代朝鮮三国の一つ、百済の都が置かれた街として知られています。

百済は、古代日本(当時は倭)と交流があった国です。『日本書紀』によれば、儒教や漢字は百済を介して伝えられ、医・易・暦の博士、僧や造仏



扶餘市街と定林寺(南から。奥は扶蘇山城)



扶餘羅城(南から)

工人、造寺工人などが来日しました。百済中興の祖として知られ中国南朝と活発に交流した武寧王は、佐賀県唐津市加唐島で生まれたと伝えられ、その子・聖明王は日本に仏教を伝えたことで有名です。

この聖明王が西暦538年、旧都・熊津(現在の公州市)から遷都したのが扶餘です。当時は泗泚といい、百済

史上、本格的に整備された最初で最後の都でした。

地形をみると、北と東には低丘陵があり、北東を上流とする錦江が都を守るように、北から西辺そして南辺に沿って流れています。海からずいぶん離れていますが、話をうかがうと汽水域の豊かな川だそうです。都の中枢は、この錦江ほとりに聳える北辺の扶蘇山(標高94m)で、山上に扶蘇山城が置かれ、南麓に王宮があったようです。都の東側は、丘陵を利用して土塁と石垣からなる城壁(羅城)が築かれています。

仏教が盛んだったことを示すように、中国南朝の技術者が建てたとされる定林寺址、日本の仏教寺院の源流を考える上で重要な王興寺址など寺院跡が点在しています。このほか7世紀中頃に作られた宮南池などもあり、風光明媚な観光地となっています。

こうした百済文化をつたえる扶餘は、他の2地域とともに「百済歴史遺跡地区」として、2015年に世界文化遺産に登録されました。

さて、太宰府との関わりですが、西暦589年に隋が、618年に唐が中国を統一すると、朝鮮半島北部の高句麗国への遠征が相次いで行われ、この影響で朝鮮半島は動乱の時

代を迎えます。660年、新羅国と結んだ唐が百済の都・泗泚を攻めると、わずか10日ほどで陥落し、百済国は滅びたため、百済の遺臣たちは国を復興すべく、当時日本にいた王子を呼び戻し、そして日本に救援を求めました。時の斉明天皇はこれに応じ

て自ら筑紫に下りますが、急に亡くなり、子の中大兄皇子(後の天智天皇)が兵を派遣しました。そして日本は663年、朝鮮半島西岸の白村江で唐に大敗したのです。こののち日本は百済から多くの遺民を受け入れるとともに、唐や新羅の襲来に備えて664年に水城を、665年には亡命した百済貴族を派遣して大野城・基肆城を築きました。大野城と扶蘇山城、水城と扶餘羅城が似ていると以前から指摘されていましたが、土木技術なども共通することが判明し、注目されています。

このほか、筑紫で亡くなった斉明天皇の供養のため、天智天皇が発願した観世音寺には、金銅製の百済仏が置かれていたという記録もあります。歴史史料や史跡から、太宰府と扶餘との、歴史的に深いつながりを知ることが出来ます。

文化財課

井上信正

編集/太宰府市総務部経営企画課: 〒818-0198
☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☒ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします!



広報がざいふ 2022.4.1 (令和4年)